

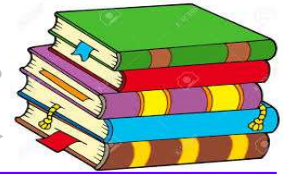
January

1月号

マークデザイン 加藤昌男



本の森



篠山市立中央図書館通信 No. 152 2018年 1月1日 発行

今月の特集

「おはつ」の 気分で

除夜の鐘が鳴り終わると新しい年が始まります。その瞬間から、すべての出来事、経験が「おはつ」です。「おはつ」とは、「お初」で、「初めて」「初めまして」という意味。考えてみると、毎日もすべてが「おはつ」であると思いますが、新年は特別。世界と自分が新たに生まれるような、きりりと身が引き締まる思いになります。そこで、「おはつ」の気分に出会える本を集めました。

『あしたの太鼓打ちへ』

林 英哲 著 羽鳥書店 768.17 ハ



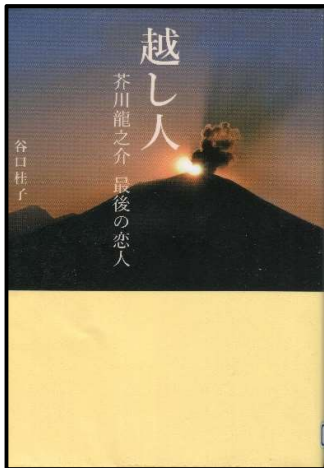
著者は、佐渡の太鼓集団「^{おんてこさ}鬼太鼓座」、「^{こどつ}鼓童」での厳しい規律と修行を経て、独奏者としてカーネギーホールにデビュー。ベルリン・フィルやジャズピアニストの山下洋輔との共演をはじめ、常に太鼓の世界を駆け抜け、新しい太鼓の表現世界を築き上げた（今も進行中！）人です。

1992年発行の本が、今回、独奏者35周年を機に増補新版となりました。25年前の気持ちを描いた内容が色あせず、何かしらの意味を持つなら、若い世代にも伝えたいという思いからです。また、「太鼓論」の章では、各小章に「体の使っていない部分に気を配る」「『目』を使え、『耳』を使え、『頭』と『足』も使いなさい」など、生き方すべてに通じるような、あしたの太鼓打ちに向けたメッセージがあります。そして、「太鼓は我々に『命の本音』について語りかけているかもしれない」という言葉が、太鼓の音と共に心に響き、新年に元気をもらえる本です。（細見）

こびと 『越し人 芥川龍之介最後の恋人』

谷口 桂子 著 小学館 Fタニ

文学の棚から



35歳という若さで自らの命を絶った芥川龍之介。その没後90年を記念して、一冊の本が完成しました。一人の女性を主人公に、在りし日の彼を描いたフィクションです。

明治・大正・昭和を生きた歌人片山廣子^{ひろこ}。芥川の最期の想い人とされる彼女は、14歳年上の未亡人。才媛な貴婦人で、堀辰雄の小説のモデルともいわれています。芥川は、死後発表された遺書^{あはほう}的・自伝的作品『或阿呆の一生』で、「才力の上にも格闘できる女性」と彼女のことを表しています。

文豪として名を馳^はせる芥川ですが、ロマンチストかつ情熱的な歌人でもありました。本書のタイトル「越し人」は、彼が詠んだ旋頭歌^{せとうか}（5・7・7・5・7・7からなる詩歌）から引用されたものです。芥川は、彼女に対する純愛をこの歌に込めたといわれています。

名だたる文豪^{いにしえ}が闊歩^{かつぽ}する明治・大正時代。しばし古の文豪たちの香りに包まれてみるのはいかがでしょうか。（酒井）

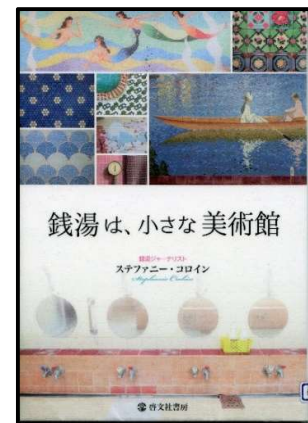
『銭湯は、小さな美術館』

ステファニー コロイン 著 啓文社 673.96コ

南フランス出身の著者は留学先の日本で銭湯に魅了されます。その後、世界中に銭湯文化を広めた功績により銭湯大使に任命されました。本著の中で著者は、外国人の視点から銭湯の魅力を3つ挙げています。美容と健康、コミュニティ、そしてアート。この本では日本各地の銭湯を写真付きで紹介しています。浴場の壁に広がるペンキ絵やモザイクタイル画、懐かしい下足札、カラフルな床のタイル、印象的な暖簾^{のれん}など、それぞれの銭湯ごとに異なる風情からは日本文化のノスタルジーを感じます。

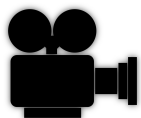
銭湯は体を洗うための場所ではなく、地域の人との交流や歴史ある芸術を通じて、心も身体もあたたかくしてくれる場所なのかもしれません。日本人にとって当たり前存在していた銭湯の魅力^{のれん}を再発見できる一冊です。（石丸）

一般書の棚から



■篠山市立中央図書館（篠山市西吹 88-1） TEL 079-590-1301 / FAX 079-594-5450

ホームページ <http://edu.city.sasayama.hyogo.jp/c-library/>



映画上映会のお知らせ



「パトリオットゲーム」
 1992年・アメリカ 117分・吹き替え
 ■監督 フィリップ ノイス
 ■出演 ハリソン フォード 他
 ■日時 1月19日(金) 14:00~16:00
 1月20日(土) 15:00~17:00
 ■場所 中央図書館 視聴覚ホール

入場無料
申し込み不要



図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 休館日	2 休館日	3	4	5	6
7	8 図書コーナー 休館日	9 休館日	10	11 親子ふれあい スペース開放 (図書コーナー)	12	13
14	15 休館日	16	17	18 親子ふれあい スペース開放 (図書コーナー)	19 映画上映会	20 映画上映会
21	22 休館日	23 丹波の森公苑 小学生絵画展 (1/17~1/28)	24	25 親子ふれあい スペース開放 (図書コーナー)	26	27
28	29 休館日	30 農都環境課 (1/30~2/6)	31 休館日	謹賀新年		

写友ささやま 写真展(12/23~1/8)

兵庫県統計課 統計グラフコンクール
作品展示(1/10~1/16)



図書館講演会

「昔ばなしが語るもの」

誰もが子どもの頃から慣れ親しんできた「昔ばなし」を取り上げた講演会を開催します。

昔ばなしは古来より脈々と受け継がれてきた口承文学です。古くは「お伽噺」として中世の時代から始まり、そして現在の平成の時代まで約千年もの間、親から子、子から孫へと語り継がれています。

なぜ語り継がれてきたのか、何が魅力なのか。講師による「語り」も交えながら、「昔ばなし」の世界を体感し、「昔ばなし」が伝えるメッセージを読み解きます。

- 1 日時 平成30年2月25日（日）
午後1時30分～午後3時30分
- 2 場所 篠山市立中央図書館 視聴覚ホール
- 3 講師 伊藤 明美 氏（小澤昔ばなし大学語り講師、元浦安市立図書館司書）
- 4 定員 50名（先着順）
- 5 申込方法 中央図書館や市民センター図書コーナーなどに備え付けの参加
申込書に必要事項を記入の上、FAX か窓口（カウンター）まで提出ください。
※定員に達し次第、受付を終了します。

- 6 問い合わせ 篠山市立中央図書館
電話：079-590-1301
FAX：079-594-5450



広場

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年は平成15年4月に当館がオープンしてから15年の節目になります。これまで利用者の皆様に多大なご尽力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

今後も、おはなし会、映画会、講演会など各種イベントを定期的開催するなど、魅力あふれる図書館を目指してスタッフ一同、努力して参りたいと存じます。

中央図書館 職員一同

HIROBA

■篠山市民センター図書コーナー（篠山市黒岡 191）TEL 079-552-0394

開館時間 10:00～18:00（日曜日は 17:00 まで）

※職員は 12:00～15:00（土・日曜日は 13:00～15:00）の間、駐在

